

文化財

1 文化財保護事業

(1)文化財保護審議会

ア 京丹後市文化財保護審議会

第1回 平成 27 年 6 月 17 日（水）大宮庁舎 4 階 第 2.3 会議室

平成 26 年度文化財関連事業報告について、平成 27 年度文化財関係事業について、平成 27 年度京丹後市文化財保護審議会の取り組みについて、京丹後市指定文化財について（非公開）

第2回 平成 27 年 10 月 5 日（月） 大宮庁舎 4 階 第 2.3 会議室

平成 27 年度文化財関連事業の進捗について、文化財保護審議会委員関連事業について、平成 27 年度京丹後市文化財保護審議会視察研修について

第3回 平成 28 年 2 月 23 日（火） アグリセンター大宮 視聴覚教育室

平成 27 年度文化財関連事業の進捗について、京丹後市指定文化財について（非公開）

第4回 平成 28 年 3 月 29 日（火） アグリセンター大宮 視聴覚教育室

平成 27 年度文化財関連事業について、京丹後市指定文化財について（非公開）

イ 両丹文化財保護連絡協議会への参加

平成 27 年 10 月 29 日（木） 舞鶴市 舞鶴赤レンガパーク 赤レンガ第 2 号棟
テーマ「文化資源を活用した地域振興」

有形・無形、指定・未指定を問わず、地域の歴史・文化を伝える様々な資料を「文化資源」と捉え、保存以外に地域振興にも活用していくにはどうすればよいかをテーマに、各市町文化財保護審議会委員や関係者を含め約 60 人が参加し交流を深めた。

ウ 平成 27 年度京丹後市文化財保護審議委員視察研修の開催

平成 27 年 12 月 16 日（水） 研修地：京都文化博物館

開催中の「大丹後展」他の展示見学を行い、丹後の歴史と文化財に関する知見を深めるとともに、資料の展示、活用等について研修を行った。

(2)指定文化財等管理事業

ア 京丹後市指定文化財等補助金

交付件数 16 件 交付金額 合計 2,500,000 円

京丹後市内の市指定文化財や未指定文化財について、建造物の修理や保存施設の整備、民俗芸能等の道具、衣装の修繕などの事業に対して補助金の交付を行った。

イ 史跡等維持管理

史跡維持管理事業 委託事業件数 18 件 金額 1,863,000 円

市内に所在する国・府・市指定史跡等について、草刈り等の維持管理を実施した。

ウ 指定文化財等管理

修繕 件数 4 件 金額 150,714 円（看板 2 件 施設 2 件）

新設 件数 2 件 金額 360,720 円（看板 2 件）

市内指定文化財看板、施設の修繕及び新指定に伴う案内看板設置を行った。

(3)コウノトリ関連事業

仲禅寺で営巣が確認されたが、産卵までは至らなかった。一方で 26 年に保護した 1 羽が収容先の福知山市動物園で死亡したほか、1 羽の保護（事故による収容、後に放鳥）、2 羽の死亡を確認した。これらについてマスコミへの情報提供や、京丹後市のホームページの更新などにより、市民へ向けて情報提供を行った。

(4)網野銚子山古墳史跡整備事業

平成 27 年度は、史跡整備に向けた範囲確認調査を実施。

目 的 古墳周辺部のうち、特に後世の改変が著しい前方部前面の試掘による状況確認を行い、併せて古墳の詳細測量及び樹木調査（40,000 ㎡）を行うことで、史跡整備の設計に資する基礎資料を得ることを目的に実施した。

現地調査期間 （当初）平成 27 年 8 月 3 日～平成 27 年 10 月 2 日

（追加）平成 27 年 11 月 4 日～平成 27 年 11 月 26 日

発掘調査現地説明会 平成 27 年 11 月 21 日実施。参加者 約 50 人

成 果 前方部前面から周溝部にかけて4ヶ所のトレンチ調査を実施した。前方部前面は地表面下においても相当に改変が進んでいることが判明。墳丘裾の傾斜面および葺石の転落状況を確認したが、削り込まれている可能性もあり、墳裾の確定にはさらなる調査が必要である。周溝については、前方部前面の外端を確認、周溝の範囲を確定することができた。

(5)市史編さん事業

ア 京丹後市史本文編『図説京丹後市の自然環境』の刊行

平成27年8月31日発刊、1,000冊

イ 京丹後市史資料編『京丹後市の古地図』の刊行

平成28年3月31日発刊、600冊

(6)埋蔵文化財

ア 埋蔵文化財発掘の手続件数

15件（92条関係 1件、93条関係 8件、94条関係 4件、99条関係 2件）

イ 埋蔵文化財発掘調査・立会調査

発掘調査 4件（京都府埋蔵文化財調査研究センター実施 女布北遺跡）
（京丹後市教育委員会実施 途中ヶ丘遺跡・女布遺跡）
（次年度調査実施予定 1件）

立会調査指示 11件（文化財保護課実施分9件、京都府教育委員会実施分2件）

慎重工事指示 0件

ウ 埋蔵文化財発掘調査

（ア）途中ヶ丘遺跡

概 要 峰山町新治・長岡に所在する峰山途中ヶ丘公園の駐車場新設計画に伴い、対象地部分の範囲確認調査を実施した。

現地調査期間 平成27年5月20日～平成27年5月28日

成 果 事業予定地において4ヶ所のトレンチ調査を実施した。顕著な遺構は検出されなかった。

報告書 『途中ヶ丘遺跡発掘調査概報Ⅴ』 平成 28 年 3 月 13 日刊行

(イ) 女布遺跡

概 要 久美浜町女布・丸山地区で実施される府営ほ場整備事業に伴い、事前に遺跡の範囲確認調査を実施した。

現地調査期間 平成 27 年 10 月 20 日～平成 27 年 10 月 29 日

成 果 次年度工事予定地において 4ヶ所のトレンチ調査を実施した。弥生～中世の遺物を含む二層の遺物包含層を調査トレンチすべてで確認した。遺構については、自然流路を確認した場所があったが、顕著な遺構は検出されなかった。

報告書 『女布遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 平成 28 年 3 月 25 日刊行

エ 市内遺跡分布調査

(ア) 概 要 将来の開発に備え今後の文化財保護の調整を図るべく詳細遺跡分布調査を実施している。27 年度は補足調査として峰山～大宮町域において実施。

(イ) 現地調査期間 平成 28 年 1 月 4 日～平成 28 年 3 月 31 日

(ウ) 成 果 調査実施内で 9 基の小規模古墳、1ヶ所の城館遺構を新規確認。

(7)普及啓発事業

ア 第 44 回丹後震災記念展

平成 28 年 3 月 5 日（土）～8 日（火） 会場：峰山地域公民館 入場者 100 名

昭和 2（1927）年 3 月 7 日に発生した北丹後地震（丹後震災）に関する展示と、京都府立峰山高等学校地学研究部による「丹後大震災と峰山高校」のパネル展示を開催した。

関連行事

3 月 5 日（土） 起震車体験 会場：ショッピングセンターマイン前

3 月 6 日（日）午後 2 時～ 峰山高等学校地学研究部顧問の小長谷誠氏による展示解説

イ 文化財セミナー

第 1 回 平成 27 年 9 月 18 日（金） 14：00～15：00

会 場 アグリセンター大宮 1 階視聴覚教養室 参加者：60 名

講 演 「里山 人と森のかかわり」深町加津枝氏

（京丹後市高齢者大学大宮学園と共催）

第2回 平成27年9月22日（火）13：30～16：00

会 場 京丹後市峰山総合福祉センター 2階コミュニティホール 参加者：100名

講 演 「北但馬・北丹後地震の被害と復興過程」植村善博氏

「北但馬地震からの復興とまちづくり」松井敬代氏

「北丹後地震の記念碑・震災記念館と復興建築」新谷勝行

（第32回歴史地震研究会京丹後大会公開講演会と共催）

第3回 平成27年11月16日（月）13：30～15：00

会 場 峰山地域公民館 1階大会議室 参加者：40名

講 演 「丹後半島における植生の変化」高原 光氏

（京丹後市高齢者大学峰山学園と共催）

第4回 平成28年3月8日（火）19：30～21：00

会 場 あみの図書館らぼーと 2階集会室 参加者：45名

講 演 「京丹後市の地質」 小瀧篤夫氏

（山陰海岸ジオパーク “知って語れるマメ知識「京丹後市の大地と歴史」”と共催）

第5回 平成28年3月11日（金）19：00～21：30

会 場 あみの図書館らぼーと 2階集会室 参加者：38名

講 演 「京丹後市の地形」 山脇正資氏

「京丹後市の海岸」 武田一郎氏

（山陰海岸ジオパーク “知って語れるマメ知識「京丹後市の大地と歴史」”と共催）

ウ 「京丹後史博士」育成講座

数多くの歴史資料を有する京丹後市の歴史について、資料を見て・触れて・読む機会を作り、郷土の歴史を体感してもらい、資料から歴史を読み取る方法を学ぶことを目的とした。併せて郷土愛を育み、文化財を通して人の交流と地域活性への原動力となる地域リーダーやサポーター作りを目的として講座を実施した。

27年度に認定した人は、京丹後史博士（25講座以上）4名、京丹後史講師（20講座以上）1名、京丹後史修士（15講座以上）2名、京丹後市学士（10講座以上）4名である。

この結果、27年度末の京丹後史博士の認定者数は61人となった。

Aブロック： 大宮町 会場： アグリセンター大宮視聴覚室、民家苑

番号	日 時	内 容	受講者数
A 1	6 月 17 日（水）	大宮の神社と境内	26 人
A 2	6 月 20 日（土）	大宮町 民家苑	14 人

Bブロック： 峰山町 会場： 峰山地域公民館大会議室、常立寺

番号	日 時	内 容	受講者数
B 1	7 月 8 日（水）	峰山藩『御用諸色之控』	23 人
B 2	7 月 18 日（土）	常立寺	18 人

Cブロック： 弥栄町・丹後町 会場： 弥栄地域公民館大会議室、丹後庁舎 2 階会議室

番号	日 時	内 容	受講者数
C 1	7 月 29 日（水）	6 世紀の首長墓	22 人
C 2	8 月 5 日（水）	「文化的景観と宮津のまちづくり」	18 人

Dブロック 網野町 会場： あみの図書館集会室

番号	日 時	内 容	受講者数
D 1	8 月 19 日（水）	銭を埋める ―埋納銭の考古学―	22 人
D 2	8 月 26 日（水）	丹後の祭礼行事	20 人

Eブロック 久美浜町 会場： 久美浜庁舎大会議室

番号	日 時	内 容	受講者数
E 1	9 月 5 日（水）	宝珠寺	24 人
E 2	9 月 16 日（水）	丹後・東海地方の文化交流	14 人

うち A2、B1、B2、C2、D1、D2、E1 は外部講師

平成 27 年度延べ受講者数 201 名

エ 丹後・東海地方の文化方言シンポジウム

丹後・東海地方のことば（方言）が類似していることより、丹後地方と尾張（名古屋）地方の方言に関して調査を実施し、また両地方の文化的な背景についても調査を実施した。また、その成果を調査報告書『丹後・東海地方のことばと文化～兄弟のようなことばを持つ両地方～』として刊行した。

5 月 26 日に愛知県庁と京丹後市において、調査成果についての記者発表を開催した。報道関係の関心も高く、市内の書店及び名古屋市博物館にて報告書を販売した。

調査成果について、広く知ってもらうために、シンポジウムを京丹後市と名古屋市で

開催した。また、両地方の関係を示すパネルを 22 枚作製して各施設にて展示活用した。

○ 丹後・東海地方の文化方言シンポジウム（京丹後市会場）

日 時 平成 27 年 6 月 27 日（日） 13：30～16：15

会 場 アミティ丹後 2 階 多目的ホール

内 容 講演「丹後と尾張（名古屋）の方言はなぜ似ているのか」

龍谷大学名誉教授 糸井 通浩 氏

講演「考古学からみた丹後・東海地方の地域間交流」

京都府埋蔵文化財調査研究センター主査 高野 陽子 氏

参加者 100 人

○ 丹後・東海地方の文化方言シンポジウム（名古屋市会場）

日 時 平成 27 年 9 月 26 日（土） 13：00～16：10

会 場 名古屋市博物館 講堂

内 容 対談「名古屋・丹後の大交流新時代」

名古屋市長 河村たかし 氏

京丹後市長 中山 泰 氏

講演「丹後と尾張（名古屋）の方言はなぜ似ているのか」

龍谷大学名誉教授 糸井 通浩 氏

講演「海部氏系図からみる尾張氏と海部氏」

文部科学省教科書調査官 鈴木 正信 氏

パネルディスカッション

糸井通浩龍谷大学名誉教授（コーディネーター）

中山泰京丹後市長、鈴木正信文部科学省教科書調査官、村木誠

名古屋市博物館学芸係長（パネラー）

参加者 130 人

オ 丹後・東海地方の文化方言調査事業

丹後・東海地方の文化方言調査については、平成 26 年度の調査により、古代における両地方の関係、方言の類似性については調査した。平成 27 年度から 29 年度までさらに両地方の中世以降の関係や各方言の内容等について調査をする計画で 27 年度も実施した。

(8)「日本のふるさと大丹後展」開催事業

ア 開催趣旨

京都府北部、日本海に面した丹後は、古くは国内最古の紀年銘鏡である青龍三年銘方格規矩四神鏡に代表される考古資料から、日本海を通じ中国大陆や朝鮮半島との交流により栄えた「丹後王国」と呼べる地域であり、日本最古の羽衣伝説や浦島伝説を代表とする豊かな伝説・伝承が息づく地域である。このような歴史と美しく豊かな自然景観が残る丹後は「日本のふるさと」と言っても過言ではない。

これまで、丹後から単独で出品される例は多くあったが、一堂に会して通覧できる展覧会はほとんどなかった。本展覧会では、こうした丹後地域の歴史を特徴づける「交流」、「伝説」、「霊地」、「生産」の4つのテーマを設定し、数々の至宝を紹介するとともに、丹後の魅力もあわせて感じていただく各種イベントを開催した。

イ 開催内容

■会 期 平成 27 年 12 月 5 日（土）～平成 28 年 1 月 17 日（日）

（月曜休館、12 月 28 日～1 月 4 日休館）

前期展示：平成 27 年 12 月 5 日（土）～平成 27 年 12 月 20 日（日）

後期展示：平成 27 年 12 月 22 日（火）～平成 28 年 1 月 17 日（日）

■会 場 京都府京都文化博物館 3 階総合展示室（京都市中京区三条高倉）

■開館時間 10：00～19：30（入場は 19：00 まで）

■入 場 料 一 般 500 円（400 円）、大学生 400 円（320 円）、高校生以下は無料。

※（ ）内は 20 名以上の団体料金。

■主 催 京都府、京都文化博物館、京都府立大学、京丹後市、京都新聞

■共 催 舞鶴市、宮津市、与謝野町、伊根町

■協 力 公益財団法人丹後地域地場産業振興センター

■後 援 京都府教育委員会、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、産経新聞社京都総局、読売新聞京都総局、朝日新聞京都総局、毎日新聞社京都支局、日本経済新聞社京都支社、エフエム京都、NHK 京都放送局、KBS 京都、京丹後コミュニティ放送 FM たんご、久美浜町有線放送農業協同組合、公益社団法人京都府観光連盟、歴史街道推進協議会、海の京都観光推進

協議会、京都丹後鉄道（WILLER TRAINS 株式会社）、丹後織物工業組合、京丹後市きもの交流会

ウ 入場者数 18,479 名（うち有料入場者数 4,978 名）

エ 出品総数 137 件

うち重要文化財 8 件、京都府指定文化財 15 件、京都府登録文化財 4 件、
市指定文化財 13 件（京丹後市、舞鶴市、兵庫県丹波市）

オ 開会式 出席者：70 名

日 時：平成 27 年 12 月 4 日（金）16:00～16:30

会 場：京都文化博物館 3 階総合展示室入口付近

※開会式終了後、18 時まで内覧会を行った。

カ 関連行事

①オープニングイベント「丹後大物産展」

日 時：平成 27 年 12 月 5 日（土）10:00～16:00

会 場：京都文化博物館別館中庭ウッドデッキ

内 容：公益財団法人丹後地域地場産業振興センター（アミティ丹後）の協力により、
丹後の食や丹後ちりめんに関するブースを出展し、展覧会のオープニングを飾った。

②陶埴コンサート 参加者：40 名

日 時：平成 27 年 12 月 13 日（日）14:00～15:30

会 場：京都文化博物館 6 階和室

内 容：サウンドアーティスト鈴木昭男さん（網野町在住）による語りと陶埴コンサート

③京都府立大学大学院生による展示解説

第 1 回：平成 27 年 12 月 6 日（日） 参加者 25 名

第 2 回：平成 27 年 12 月 13 日（日） 参加者 30 名

第 3 回：平成 27 年 12 月 20 日（日） 参加者 50 名

第 4 回：平成 28 年 1 月 10 日（日） 参加者 45 名

※いずれも 11:00～11:30

④京丹後市教育委員会文化財保護課職員によるギャラリートーク（展示解説）

第 1 回：平成 27 年 12 月 11 日（金） 参加者 22 名

第2回：平成27年12月18日（金） 参加者35名

第3回：平成27年12月25日（金） 参加者38名

第4回：平成28年 1月8日（金） 参加者82名

第5回：平成28年 1月15日（金） 参加者70名

※いずれも14：00～14：30

⑤関連講演会 参加者200名

日 時：平成27年12月12日（土）13：30～17：00

会 場：京丹後市峰山総合福祉センター2階コミュニティホール

内 容：シンポジウム「丹後展の見どころを探る」

①遺跡から探る交流の歴史 京都府立大学 菱田哲郎氏

②中世丹後の神仏と信仰 京都府立大学 横内裕人氏

③海と川が繋ぐ丹後の江戸時代 京都府立大学 藤本仁文氏

④パネルディスカッション「丹後展の見どころを探る」

コーディネーター 京都府立大学 小林啓治氏

入場料：無料

（9）収蔵資料整理事業

文化財整理事業

市内の写真家等から寄贈を受けたネガフィルムのデジタル化を行うとともに、内容確認、分類作業を行った。

また、旧弥栄庁舎の解体に伴い、スチール棚等を収蔵保管用に活用するため、旧竹野小学校に移転した。

2 文化財保護関係施設

(1)京丹後市デジタルミュージアム

京丹後市内の指定文化財を紹介するHPを開設している。

URL : <http://www.city.kyotango.lg.jp/kyoiku/bunka/shiryokan/digitalmuseum/index.html>

(2)琴引浜鳴き砂文化館

所在地：〒627-3112 京丹後市網野町掛津 56 TEL・FAX 72-5511

URL : <http://www.nakisuna.jp/>

入館料：大人 300 円・子供 100 円（団体 15 名以上大人 200 円）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌日）・年末年始

平成 13 年 10 月オープン。木造 2 階建。財団法人日本ナショナルトラストが建設した施設で、18 年度からは指定管理制度を導入し掛津区が管理運営を行っている。琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図っている。

平成 27 年度入館者数 12,361 名

(3)丹後古代の里資料館

所在地：〒627-0228 京丹後市丹後町宮 108 TEL 75-2431 FAX 75-2432

URL : <http://www.city.kyotango.lg.jp/museum/kodainosato/>

入館料：大人 300 円・小中学生 150 円（団体 15 名以上：大人 200 円・小中学生 100 円）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌日）・年末年始

平成 6 年 7 月オープン。鉄筋コンクリート 2 階建て（瓦葺）。常設展示室 1・企画展示室 1。公園に竪穴住居 3 棟・高床倉庫 1 棟（木造）を復元。陶芸・勾玉作り・火起し体験が可能。京丹後市域の歴史・考古資料を中心とした展示・収集・保管を行っている。

ア 平成 27 年度事業

平成 27 年度 入館者数 3,616 名

（ア）丹後古代の里資料館春季企画展示・第 32 回歴史地震研究会京丹後大会開催決定記念・豊岡市立歴史博物館－但馬国府・国分寺館連携事業「北但馬地震から 90 年」

期 間：平成 27 年 4 月 25 日（土）～7 月 21 日（月）

概 要：90 年前に発生した北但馬地震を、写真画報・絵葉書等の資料を用いて紹介

（イ）丹後古代の里資料館夏季企画展「丹後の村から見た戦争－村人と兵隊－」

期 間：平成 27 年 7 月 25 日（土）～11 月 3 日（火）

概 要：戦後 70 年をむかえ、当時の村や住民と戦争との関わりを残された資料から見た
京都府立大学学生による展示解説：8 月 9 日（日）・23 日（日）

いずれも 11：00～12：00 と 14：00～15：00

（ウ）日本のふるさと大丹後展開催記念展示「網野銚子山古墳の世界」

期 間：平成 27 年 12 月 5 日（土）～平成 28 年 4 月 17 日（日）

概 要：日本海側最大の網野銚子山古墳の発見の歴史と出土遺物を紹介した

（エ）夏休み特別企画「夏休みこども陶芸教室」

日 時：平成 27 年 7 月 29 日（水）、8 月 2 日（日）いずれも 9：30～12：00

（オ）夏休み特別企画「丹後王国の世界 展示解説」

日 時：平成 27 年 8 月 7 日（金）、8 日（土）、19 日（水）、22 日（土）

いずれも 9：30～11：00

（カ）古代の里まつり 平成 28 年 3 月 20 日（日） 入館者 331 名

勾玉づくり体験、丹後歴史研究会会員による常設展示の展示解説

イ 減免申請 件数 13 件

（4）網野郷土資料館

所在地：〒629-3241 京丹後市網野町木津 823 TEL・FAX 74-0044

URL：<http://www.city.kyotango.lg.jp/museum/aminokyodoshiryokan/index.htm>

入館料：大人 200 円・小中学生 100 円（団体 15 名以上大人 120 円・小中学生 60 円）

開館日：火・土・日曜日（ただし年末年始は休館）

旧木津小学校の校舎を利用して昭和 52 年オープン。木造 2 階建（瓦葺）。小学校の教室を転用した展示室。京丹後市域の民俗資料を中心に古文書・古書籍等の展示・収集・保管を行っている。

ア 平成 27 年度事業

平成 27 年度入館者数 1,035 名

（ア）夏季企画展「丹後の村から見た戦争－村人と兵隊－」

期 間：平成 27 年 7 月 25 日（土）～9 月 9 日（日）

概 要：軍服、たすき、千人針、ゲートル、鉄カブト等を展示

（イ）秋季企画展「むかしの装い展」

期 間：平成 27 年 9 月 13 日（日）～10 月 4 日（日）

概 要：普段は収蔵している資料のうち被服関係の資料を展示。

(ウ) 冬季企画展「昔の暮らし展」

期 間：平成 28 年 1 月 5 日（火）～2 月 23 日（火）

概 要：教科書にも載っている昔の暮らしを実感できる道具を展示。

(エ) 春季企画展「こどもの節句展」

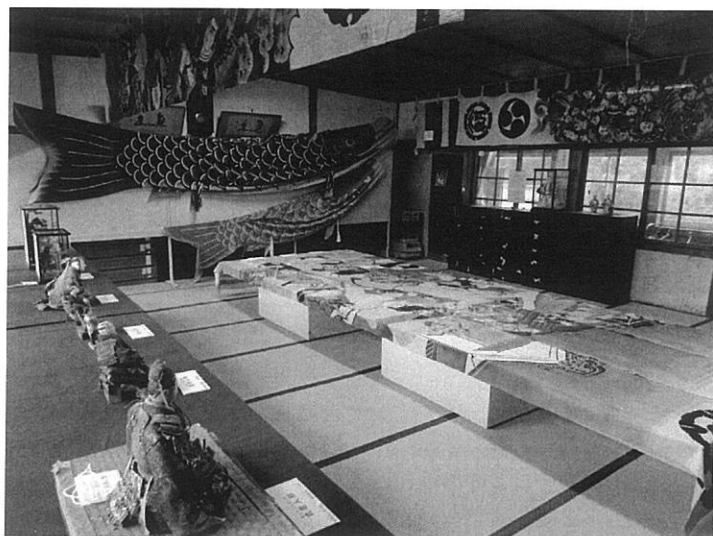
期 間：平成 28 年 3 月 8 日（火）～5 月 10 日（火）

概 要：幟旗や雛人形等の展示。

(カ) 網野郷土資料館まつり 平成 27 年 11 月 1 日（日） 入館者数 67 名

手機体験（実演）、石臼粉ひき（はったい粉づくり）体験、勾玉づくり体験

イ 減免申請 件数 12 件



こどもの節句展

3 指定文化財

(1)京丹後市内指定・登録文化財件数一覧表

指定区分	国指定	国登録	府指定	府登録	市指定	合計
建造物	2	13	4	8	11	38
絵画			3		15	18
彫刻	2		2		12	16
工芸品	1		4		11	16
書跡					3	3
古文書			1	1	1	3
歴史資料			1			1
考古資料	3		6	1	9	19
無形民俗文化財			3	8	3	14
有形民俗文化財					1	1
史跡	5		6		16	27
遺跡					1	1
名勝	1		1		3	5
天然記念物	2		1		11	14
文化財環境保全地区			3		2	5
文化的景観			2			2
合計	16	13	37	18	99	183

(国指定考古資料 1 件・府指定考古資料 2 件は、京丹後市内出土であるが、京都府所蔵)

* 市指定文化財の新規追加として「霧降りの滝」、「無明の滝」の 2 件を追加した。

（２）新指定文化財紹介

平成 27 年度は、市指定名勝として、市内にある滝を新たに 2 件指定した。

ア ^{むみょう}無明の滝

所 在 地 京丹後市久美浜町市野々

落 差 40m

滝 の 形 ^{ぶんきばく}分岐瀑

標 高 240m

文化財種別 名勝



高龍寺ヶ岳から流れる川上谷川の上流にあり、標高 240mの地点に所在する滝。京丹後市内にある滝の中で、最長の滝(約 60m)である。丹後地域においても有数の滝にして、その価値はきわめて高い。

イ ^{きりふ}霧降りの滝

所 在 地 京丹後市網野町新庄

落 差 20m

滝 の 形 ^{ぶんきばく}分岐瀑

標 高 141m

文化財種別 名勝



京丹後市内有数の滝である。水量も安定しており、^{すだれじょう}簾状に^{いくじょう}幾条にも流れ落ちる景観は優美である。滝の岩肌には不動明王の彫刻が線刻されるなど、古くから地元の信仰の対象であり、名勝地としても知られていた。滝から落ちる水が岩に当たり、霧状にたちこめる様子はその名の通り、霧がかかり幻想的な光景である。